

平成22年度一般会計当初予算説明資料

8款 土木費

4項 港湾費

1目 港湾管理費

空港港湾課(内線：7380)

(単位：千円)

事業名	本年度	前年度	比較	財源内訳				備考
				国庫支出金	起債	その他	一般財源	
鳥取港振興対策事業	4,220	2,918	1,302				4,220	

トータルコスト 15,515千円 (前年度 14,517千円) [正職員：1.5人]

主な業務内容 港湾利用者等へのポートセールス、鳥取港振興会補助金等交付事務

工程表の政策目標(指標)  
 ・取扱貨物量の増加を図る(取扱貨物量 800トン)  
 ・関連用地(64,000㎡)の分譲又は長期貸付の促進(130,000㎡)  
 ・寄港回数の増加(年間2回)

事業内容の説明

1 事業の概要

重要港湾鳥取港の利用促進を図るため、利用促進活動を行う「鳥取港振興会」に県及び鳥取市が1/2ずつ補助金を交付する。

2 事業の内容

(1) 利用促進活動を実施する鳥取港振興会への補助

(新) 海外ポートセールス

韓国・中国・ロシア等、今後の貿易の期待が高い地域におけるポートセールス活動を行う。

事業内容	平成22年度鳥取港振興会の事業費			
	事業費	県負担	市負担	会費
鳥取港振興会 補助金事業(県1/2・市1/2)	8,064	4,032	4,032	
(新) 海外ポートセールス、国内ポートセールス、クルーズ客船誘致推進、鳥取港利用促進研修会等				
鳥取港振興会 会費事業(58団体)	580			580
会報作成、現地研修等				
合計	8,644	4,032	4,032	580

○その他県事務費 188千円

(2) 「新規外国貿易支援事業」(仮称)の創設

新たに鳥取港を利用して外国貿易を行う事業者に対し、平成22年度の1年間において、港湾使用料(けい船料)を全額減免する。

3 これまでの取組状況、改善点

- ・取扱貨物量は、平成12年の173万トンピークに減少し、平成16年以降は40万トン程度で推移していたが、利用促進活動により、平成21年は6年ぶりに50万トンを超えた。
- ・併せて、積極的なクルーズ誘致活動により、客船の寄港も平成22年は3隻が予定されている。また、誘致活動の結果、鳥取港を利用する新たな外国貿易の可能性案件が浮上している。
- ・今後も鳥取自動車道等の開通、対岸諸国との地理的優位性を活かし、更なる利用促進活動を行う。